



女性部運動の原点を大切にしたりとくみをすすめよう

全教女性部第22回総会を開催し2012年度方針を確立



4月14～15日の2日間の日程で、全教女性部第22回総会が開催されました。総会では、「2011年度のたたかひの総括」「2012年度運動方針」「2011年度決算及び2012年度予算」についての執行部からの提案について、熱心な討論が行われました。

今回の討論の特徴は①改悪教基法や、大阪「二条例案」に見られるような政治の教育への介入の中ですすめられる「競争と管理」の教育の強まりの実態と、それに対する私たちの取り組みの方向が明らかになったこと②「女性部運動の原点を大切にしたりとくみをすすめよう」との執行部の提起を積極的に受けとめ、実践していこうとの発言が活発に出されたこと③そのためにも仲間を増やすことが大切だということが確認されたこと④「原発ゼロ」などの共同のとりくみの広がりが確認できたことなどです。各地から職場の要求に根差した、粘り強いとりくみが報告されました。

【女性の要求をたぼね、各地で奮闘する女性部の姿が浮き彫りに！！】

【福島高】 この1年で福島はどう変わったのか。福島原発事故が収束しない中でも1人でも、たくさん国立大学への進学者を出すことを目的としている管理職も。たくさんあったサテライト校が一つにされてしまい、転校するか寄宿舎に入らなければならない事態になった。サテライト校はすべて定員割れ。その中でも何とか自分の学校に戻って勉強したいという子どもたち。病院の統廃合が進められる中、震災関連死も出ている。

【東京】 東京では、石原知事が「破壊的教育改革」をすすめている。今回成績率でボーナスに差をつける人事考課制度が提案された。全部の教職員からお金を取り上げて「成績の良い人」には少しあげて、「悪い人」からは「とりっぱなし」という制度。査定がどのようにされるかはブラックボックス。これではますます暗い職場になってしまうと、交渉を続けてきた。引き続き協議で今回は決着したが、さらにたたかひが必要。10月には、ぜひ東京集会への参加を！

【大阪】 「二条例案」反対の大阪のとりくみ。教育への政治の介入が日々すすんでいる。財界言いなりの教育。泉高校の「口元調査」などまさしく憲法違反の事態が次々に。大阪市でも卒業式で職務命令が出された。また、学校選択制が進められようとしている。各地で開催されている教育フォーラムに参加し意見を述べること、PTAや市議員への要請行動をすすめることなど共同のとりくみをすすめていきたい。

【長野高】 女性部の活動や意義について1年かけて論議を深めてきた。昨年の女性部大会で女性部不要論が出されたことがきっかけ。支部や職場で論議をすすめ、歴史を振り返り、権利の前進のためには女性部は不可欠との意見がたくさん返ってきた。10月の女性部学習交流集会では、「婦人部のあゆみとともに」と題する学習会を行い、女性部の存在意義を改めて確認した。

【山口】 妊娠者の体育代替の完全配置を求めて、たたかひをすすめてきた。要求の過半数を取ろうと職場に提起し、3000筆を超える署名を集めてきた。職場のみんなに喜んでもらえるとりくみになった。今年は、「女性教職員の権利リーフ」を3000冊作成し、全部の分会に届いたかどうかきちんと確かめていきたい。「組合があつて本当によかった」と言えるとりくみをすすめていく。東京集会には20人で参加したい。



【島根】 昨年8月不妊治療を受けている人から「原因がわからないと病休が使えない。年休がどんどん減っていくし調子も悪い。このままいくと辞めなければならない。」との相談が寄せられる。女性部と県教組と一緒に交渉をし、3月に「原因のわからない不妊症も病気休暇」として認めるとの回答。改正内容について管理職研修での説明を求めていく。今年度は、更年期休暇を求めていきたい。

【岡山高】 3/3に女性部フォーラムを開催。2年に1度の女性の権利手帳の作成にあたって、「働き続けられないと苦しんでいる女性教職員を励ますものにしよう」と企画した。「自分も家庭も仕事も大切にしながらしながら働きつづけるために」と題した学習をし、今年度の運動に生かしていく。

【京都】 京都市長選の結果は残念だったが、今までつながりのなかった層とのつながりができたことは財産。京都市教組では、子育て中のママに集まってもらい「子育てママの会」を開催。情報交換の場として楽しい会になり、継続して開催。公務災害の認定で2つの勝利。京都市教委が超勤縮減の通達を出す結果に。11月のはたらく女性の中央集会in京都へぜひ参加を。

【山口高】 4月から3%の独自カットが終了し、賃上げになった。時間外勤務80～100時間の人は部活動が主な原因になっている。県教委から1週間に1回は休息日をとるようにとの通達を出させる。女性部のあり方として、子育ての権利だけでなく、



子どもがいない、結婚をしていない女性も含めて女性部活動をすすめていくためにも母性保護を大切に活動を進めていくことが大切。

【大阪】「二条例案」阻止のために集会を何回も開いて運動をすすめてきた。なかなか橋下氏の人気は衰えず大変な思いをしているが、全国のみんなが応援してくれるので、元気をもらうことができる。大阪市教で紙芝居をわかりやすい紙芝居をつかった。組合の力を大きくしていかなければならない。リーフとポスターの両方を作る。裾野を広げている人々に活動に参加してもらえようとしていきたい。

【高知】リフレッシュ休暇改悪を阻止。「オレンジ署名」を緊急に3284筆集める。女性部は、独自に一言メッセージを100枚以上集めて模造紙4枚に貼りだし、交渉の場に持ち込む。3回の交渉を経てリフレッシュ休暇改悪提案を撤回させる。権利は、組合が獲得し守ってきたものであることをもっと職場の中に知らせていくことが必要。大阪の権利DVDを参考に高知版DVDを作成し配布、活用していく。

【高知高】新たな人事評価制度が導入される。面談で目標を設定。経験年数によってステージが設定される。目標の項目ごとに点数で評価を5, 4, 3, 2, 1と打ち込んでいくと、点数で評価が出てくる。これで公平性、納得性が高められたのかというと余計泥沼にはまってしまう。一度導入されるとやめさせるのは困難。導入前に食い止めることが重要。駐車場料金の値上げを阻止してきた。

【大阪高】「君が代」起立斉唱に関わって職務命令が文書で出される。卒業式の仕事分担や席順まで指示。不起立者を校長ともども教育委員会が呼び出して、誓約書を書かせ署名を求め措置。大阪府では、308人(13.4%)の辞退者。こうした事態を府教委はきちんと説明していない。「シングルマザーなのに定時制に配属された」「妊娠したがどうしたらいいか」などの相談がこの間寄せられている。女性部の果たす役割は大きい。

【京都高】大阪のまねはしない、と府教委は言っているが、じわりとその影響が出てきている。あれだけマスコミを利用してやってきているのは非常に危険だと感じている。今年度当初の人事異動がひどかった。かなりの定数減の中、30人が異動するという学校も出てきている。新採研の簡略化にとりくみ合宿をやめる、2年目の研修をやめるなどの成果があった。女性部委員会では、福島から避難している方の話を聞いた。女性部としてどんなことができるか考えていきたい。

【岐阜】職場や組合員の要求を大切に活動してきた。昨年度も交渉に向けて1400のアンケートを集めてきた。どこに女性の要求を絞っていくか考えていかなければならない。アンケートだけで拾いきれない声、要求をどうくみ上げていくか考えていく。仲間を増やすことに真剣に向き合う。「組合に入ると何かいいことがあるの」「組合って何?」「権利って何?」などについて学ぶ場をつくっていく。

【愛知】鳥居労災裁判勝利。昨年パワハラ指針が出された。しかし県教委から市町村立学校の現場までなかなかおりにこない。市町によってアンバランスがある。とりくみを強める必要がある。なかなか女性部独自の活動ができないが、全体で女性部の要求について交渉できる力をつけていきたい。ポイントをしばって要求を聞き取る活動をすすめていく。

【埼玉】1月28~29日に130人が参加して女性部学校を開催。聖学院大学学長の阿久登さんが「東日本大震災後の希望」と題する講演。「先生が幸福でなくて、みんなが幸福になれますか」「競争社会をなくしていくべき」「様々な場に50%の女性が参加していくことが大事」との話があった。臨採者に妊娠時の体育代替が実現。

【私教連】私学経営が厳しくなっている中での組合攻撃もある。公立で経験のある管理職が私学に来て統制を強めようとする動きも出ている。新潟の加茂暁成高校、山口の長門高校、若松一高のパワハラ問題、松陰学園の30年に及ぶたたかい、鶴川高校の「立番」業務の問題などにとりくんでいるところ。

【都障教組】石原都政の教育行政への介入の中、リストラの嵐になっている。いろいろな障害を持った子どもたちが、特別支援の名のもとに一つの学校にぎゅうぎゅうに押し込められようとしている。専門家との連携と言いながらリストラをすすめようとしている。例えばヘルパー2級の免許を持っている介護の専門家と言われる人を入れて教員の数を減らしている。専門家は必要だが、それは教員に代わるものではない。700近い教室が足りない状況。障害児学校の設置基準を求めて署名を集めていく。

【北海道】北海道でも統廃合がすすめられている。釧路でも初任者が40人から13人に減っている。学力テスト最下位を抜け出すとして「学力向上」が言われている。服務規律の実態調査が38,000人を対象に行われ、国庫負担分の返却が求められる。中には、運動会のための早出の分を早く帰ったのがいけないという不当な内容が含まれており、今後のとりくみが必要。

【滋賀】高校統廃合を許さない運動が共同で大きくすすんでいる。昨年の秋、県教委からパワハラ防止指針が出される。職場でどんなとりくみをしていくか、声をあげていく必要がある。原発の問題は、福島だけの問題ではない。サマー教研で学習会を持ちたいと考えている。

【和歌山】訴えれば応えてくれるということ強く感じている。子どもの看護休暇について、障害を持っている子どもについては年齢制限が撤廃された。さらに広げていきたい。育休者へのアンケートで短時間勤務制度を1/3しか知らないことがわかった。ハンドブックを作成してもっと知らせていく。今年から女性の専従を再び置くことができた。女性部常任を5人から7人という元の体制に戻すことができた。女性部活動を楽しく元気にやっていきたい。

【群馬】2011年度末に「子どもたちを放射能被害から守る高崎の会」を結成・国際女性デーでも後藤道代さんの講演で学ぶ。3.11 さよなら原発アクションには、原発ゼロの1点で2,600人が集まり、警察もびっくりするほどのデモができた。みんなで手を取り合っている課題。4月には伊勢崎、藤岡でも給食食材の測定が始まっている。

定年延長ではなく「再任用の義務化」が狙われる高齢期雇用問題について兵庫から質問があり、議案の内容を深めることができました。

